



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和3年6月30日
NO. 42



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

福祉について深く考えたい

昨日のNo. 41で、認知症サポーター講習についてお知らせしました。福祉はSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標の一つにも挙げられていますし、日本でも大きな社会問題になっています。

改めて福祉について考えたとき、以前読んだ二つの作文が浮かびます。素敵な作文です。紹介します。

素敵な作文1 「何も変わらないよ!!」

私は、今年の六月に成田市で開かれた「あじさいまつり」に参加させていただきました。

そこでは、色々なお仕事体験ができたし、ゲームができたし買い物もできたりとても楽しめました。

でも一番は、私の心があたたまった経験ができた事です。それは、このあじさいまつりは、障がいのある人をサポートしてくれる施設で行われているのです。ここで買い物をした時のお店の店員さんが障がいを持った人だったのです。一生懸命に対応してくれました。品物を選んでる私に、言葉では言えなくても「どれがいい?」と言うように身ぶり手ぶりで伝えてくれるのです。障がいのない人よりもゆっくりですが、お客さんに対する気持ちは、健じょう者に負けていないと思います。なにより、一生懸命に働いている姿が素晴らしく見えたのです。このお祭りでは、障がい者と健じょう者が協力してがんばっていました。私とお父さんは、少しでも障がいのある人がお仕事にやりがいを持ってはげみになってくれるといいなあ~と思い、家族でTシャツも購入しました。このTシャツは、染めて作ったそうです。とても価値のあるTシャツだと私は思います。

このお祭りで、たくさんの障がいを持った人に会いました。ふだんではなかなか経験する事ができないことでした。この経験は、障がい者を理解するととても良い場でした。たくさんの人にこのような体験をしてもらいたいです。そうすれば、少しでも障がい者の頑張りを認めて良い所を見つけられるようになると思ったのです。

私は、この体験で障がい者も私たちも何も変わらないと思いました。健じょう者も苦手なことがあるのですから。

同じ人間で、何も変わらないよ!!

素敵な作文2 「橋の上で会う人」

通学路の途中に橋がある。その橋を渡ると中学校はすぐそこだ。吹奏楽部の朝練習がある日は、七時十分くらいにその橋を渡れば先輩方より先に到着することが出来る。逆算して、六時五十分には家を出るようにしている。

この時間に出ると、必ず橋の上で会う人がいる。その日によってすれ違うポイントは違うが、橋の上のどこかで会えれば、時間に間に合う目印になっている。橋の上で会う人は、白い杖をついている。毎日、見えない中できっと会社に行っているのだろう。えらいなあと思っている。

ある日、寝坊をしてしまい、七時に家を出ることになった、私はオーボエを幼稚園バッグのように肩からさげ、通学カバンをリュックサックのように背負い、制服をヒラヒラさせながらダッシュで学校に向かった。朝練習に行く人は、どんなにあたりを見まわしても誰一人いなかった。心臓がバクバクしていた。このような日に限って、どの信号にも引っかかる。止まってはイライラし、青になったとたんにダッシュするくり返しだった。

しかし、橋の上で会う人は、いつものように橋の上で会えた。ホッとしたが、周囲には相変わらず誰もいない。まだ安心できないと思い、ダッシュで走り出した直後、車の急ブレーキの音と大きなクラクションがなり響いた。

ハッとふり返った。いろいろな心臓のバクバクが共鳴し、胸が苦しくなった。橋の上で会う人が、赤信号で渡ろうとしていて、車の人に注意されていた。ぶつかってははいないようだった。

朝練習の開始時間も気になったが、橋の上の人のところまでかけよった。その時、ちょうど青信号に変わった。何事もなかったかのように橋の上の人は、いつもより少し早歩きで駅の方に向かって歩いていった。そして私もさらにダッシュで学校に向かっていった。

何とか間に合ったが、心の中は複雑だ。もし事故にあっていたら…私は何か出来ることがあったのではないだろうか。

その話を、違う部活の友人に話したら、「じゃあ、今度挨拶してみれば?」と、ごく自然に話してくれた。どこかで分かっていた答えだが、その行動から逃げている自分がある。「偏見」なのかもしれない。

明日、挨拶してみよう。挨拶できるかな。出来るといいな。

今後ますます大切になる「共生社会」。私たち大人が偏見のない気持ちを持ち続けることが大前提ですが、私は、この子たちのような気持ちを今後の太田や大仙、社会を担う太田生にもってほしいと思っています。